
天地

ネットワーク テーブル 435号

発行：天地シニアネットワーク／2016・10・31

「目次」

T E N T I ・ T O D A Y			1
会員の広場「日本シリーズ」			2
連載作品			3
随 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙をはかれー 12. ガリレイからニュートンへ	伊那 闊歩	3
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語（10） ＜東山山麓2，隋心院 門跡＞	大竹 漢洲	6
天地アー カイブ	アメリカの日本人	魚山 釣太	8
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		11
事務局			13

T E N T I T O D A Y

東京スカイツリー、眺めているだけでしたが、先日上りたいという地方の友人がいて、一緒に上りました。ブームも一段落したのでしょうか、平日の午後ということもあって、チケットを買うのに約20分、エレベータ待ち約10分と、思ったより楽に上れました。上空350メートルからの視界、恐さと見たさが交錯、富士山、筑波山など霞んで見えないので、360度の展望を一回りして早々に下りてきました。低層階はショッピングのゾーンが広く楽しめるようですが、迷いました。

大学の同期会があり、仲の良かった級友で20歳ほど年下の中国人女性と結婚した元銀行マンに会いました。広州の近郊に居を構えているようですが、75歳を過ぎると、二か月毎にビサの切り替えが必要になり、しょっちゅう帰国するとのこと。本人は、日本の年金で生活しているようですが、不動産ブームにのってか、400㎡もあるマンション暮らしをしているようです。我々同様に、高齢者特有の湿疹に悩まされているようですが、中国の医者ではダメだそうです。

横浜で、87歳の運転手が軽トラックを運転し、小学1年生を死亡させたという痛ましい事件がおきました。報道は、運転手が認知症でなかったかを問題にしていますが、87歳の老人が、生活のためにまだ運転を続けなくてはならないとしたら、世の中がおかしいとしか言いようがありません。危険を放置する社会に問題がありそうです。87歳の運転手の過失責任だけで済まされては、ご遺族はやりきれないに違いありません。

会員の広場

広島カープと日本ハムの日本シリーズ、両チーム監督のプロ野球にたいする思い＝ファンにたいする思いが強く感じられ、歴史に残る素晴らしいシリーズでした。カープが連勝した後の3回戦、同点で迎えた7回(?)、2死から日ハムの西川選手が塁に出て、バッター大谷選手の時に二塁盗塁に成功した場面、広島は、選手が集まり相談、敢然と勝負に出、その結果、大谷選手に打たれ敗戦に繋がりました。2ストライクはとっていましたが、勝ちに行くなら一塁が空いているので敬遠だったでしょう。あえて勝負した広島、大谷選手を際立たせることになり、勝てない敵を作ってしまいました。逃げないで潔く立ち向かう姿勢、スポーツの心髄をみせてもらいました。

優勝後、日ハムの栗山監督がインタビューにクールな対応をしていましたが、広島ベンチへの敬意に似たものが胸の内にあったように思えます。

(津田)

連載作品

天のわざ、地のほまれ —地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

12. ガリレイからニュートンへ

1642年1月8日、ガリレオ・ガリレイは、フィレンツェ近郊アルチェトリの自邸に軟禁されたまま、79歳の波乱に満ちた生涯を閉じた。はからずも同じ年の12月25日クリスマスに英国ウールズソープの小村において、アイザック・ニュートン(1642-1727)が誕生していたのだ。月足らずの虚弱児であつたらしい。幼少期のニュートンは家庭的な幸せには恵まれなかった・・・というのは、かれが生まれる3か月前に、父親はすでに他界しており、ほどなく母親も再婚し幼いニュートンを祖母にあずけて家をでていったためである。数年後、再婚相手も死去したため、母親は幼い弟妹を連れてもどってきたのであるが、一度は母親に捨てられたという思いが、ニュートンの心にトラウマとなって、生涯にわたって暗くつきまとっていたのではないかといわれている。

1655年、13歳のニュートンはグラマースクール(king's School)に入学し、貧しさのために学業を断念させられそうになり、またいじめにあいながらも、ラテン語の読み書きを習い、天文学のほかに代数や幾何学のおもしろさに魅了されていったものと思われる。30年後ラテン語で書かれた大著『プリンキピア』に提示された数々の幾何学的手法は、まさに、読者をして身震いせしめるほど見事であると言っても過言ではない。ニュートンの頭脳に秘められた天分を開花させるためのすべての素地がこのグラマースクー

ルの4年間に醸成されたにちがいない。

蒙昧な母親も我が子が只者ではないことを見抜き、かれに父親とおなじヨーマン (yeoman、自営農民) として一生を送らせるのではなく、できることならかれを大学に進学させようと願ったのだ。1661年、叔父のすすめにより、学生たちの下僕同然の給費生としてケンブリッジ大学・トリニティー・カレッジに入学した。そこで有能な教師、数学者アイザック・バローに出会い、高等数学と特に「光学」を教えられてその魅力に捉われ、ニュートンはその豊かな才能を開花させていくのだ。

ニュートンが生きた17世紀の英国は、動乱のさなかにあった。1642年にピューリタン革命が勃発、オリバー・クロムウェル (1599-1658) 率いる清教徒たちによる議会軍は王軍を撃破し、49年チャールズ一世を処刑して共和制 (コモンウェルス) を樹立した。60年、護国卿クロムウェルの死により王政にもどったものの、オランダとの戦争 (英蘭戦争) が長々と続く。なによりも怖れたのは悪疫ペストであった。65年、ロンドンでペストが大流行して大学も閉鎖され、ニュートンは約2年間故郷で過ごすことになった。ロンドンは当時人口46万人、そのうち約10万人がペストで死亡したと記録されている。静かな思索の時を得て自由気ままに自然現象や天体の運行におもいを馳せ新しい発見の喜びに浸っていたものと思われる。66年にはロンドンで大火があり木造建築の85%が焼失したというが、同時に火事のおかげか (ネズミや不潔な場所が一掃され?) ペストの流行が下火になったのは幸いであった。

話はまたガリレオ (の時代) にもどるが、かれは物体に働く「力」とか「運動量」や「エネルギー」といった物理の基本となる量を正確に定義することができなかった。もちろん万有引力についての知識はない。天体の運行にかんするケプラーの3法則の重要性を認識することもなかった。ケプラーを理解するだけの力量はなかったようである。しかしながら、かれは鋭い眼をもった自然観察者であり、すぐれた実験物理学者であった。

“ピサの斜塔の上から重いものと軽いものを同時に落としてそれらが同時に着地することを発見した” というのは、ガリレオにかんする数々の伝説のひとつとされているが、かれは、非常に傾斜のゆるいレールの上に鉄球とコルクの球を転がして見て、それらが転がって進むスピードがまったく同じであることを実際に確かめたのである。この観察によってアリストテレスが唱える“重いものは軽いものよりもはやく地上に到達する” という主張は完全に否定されたのだ (「天文対話」 pp. 334)。もし、鉄球1個と鉄球2個分の重さのものとを同時に落として差が見られるならば、鉄球1000個分のものと鉄球1個とを同時に落として比べてみるがよい。もしアリストテレスが正しいならば、この差はかなり大きくなるはずだ! しかしながら、この差はゼロ! つまり、**落体の運動は落体の質量には依存しないのだ**。木の葉や鳥の羽などは、落下の際に強い空気抵抗をうけるため、なかなか着地しない。当然、空気抵抗を無視できるような物体を用いて実験することは言うまでもない。

ガリレオは、レールの上を転がる玉の進む距離を単位時間 (例えば1秒) ごとに正確に測ってみた。静止状態から玉をころがし、1秒後にころがった距離をはかる。それが1メートルであったとする (レールの傾斜をかえれば、

距離の調整ができる)。すると次の 1 秒間に玉が転がる長さは 3 メートルになる。そして、2 秒から 3 秒の間に玉は 5 メートル進むのだ。つまり時間とともに奇数メートルずつ距離が増えていくのである。静止状態から 3 秒後まで、玉が転がった距離の総和は、 $1 + 3 + 5 = 9 = 3^2$ メートルとなり、距離は時間の平方に比例することがわかった。こうしてガリレオは、重要な法則を発見したのだ。それを数式によって表現すると、距離を y 、時間を t として

$$y = t^2 \quad (1)$$

とかける。(1) 式は、物体を傾いたレールの上に転がした時の落下距離 y と時間 t との間の関係を与える式となる。この式から、物体は静止の状態から 1 秒後には 1 メートル落下し、2 秒後には 4 メートル、3 秒後に落下距離は 9 メートルとなることがわかる。

レール上ではなく、自然落下させた場合には、最初の 1 秒間に 4.9 メートル落下し、次の 1 秒間には $4.9 \times 3 = 14.7$ メートル、さらに次の 1 秒間に $4.9 \times 5 = 24.5$ メートル落下する。つまり、(1) 式の右辺に比例定数 4.9 がつくだけのことである。ピサの斜塔の頂上（高さ 55.86 メートル）から落下した物体は 3.38 秒後に着地すると計算されるから、自由落下運動は速すぎてとても正確な記録がとれない。やはりガリレオが傾斜したレールを使ったことは正解であった。なおピサの斜塔のテッペンから、物体を自由落下させるのではなく、スピードをつけて水平に放り出したとしても、それが着地したときまでに経過する時間はやはり 3.38 秒なのである。

ガリレオはさらに落体のスピードを観察し、それが距離の平方根に比例することをつきとめた。つまり、落体の落下のスピードは時間 t に比例して大きくなるのである。物体のスピードとは、その移動距離を経過時間で割り算したものである。スピードが一定である場合には、問題はない。100 km の距離を車で 2 時間かけて移動したとすれば、スピードは平均時速 50 km、秒速 13.9 メートルである。これを距離や時間を測る単位も明示して、13.9 m/s と書く。

上に示した例にもどって、レール上を転がる玉のスピードを観察してみる。玉は、静止の状態から 1 秒後には 2m/s で落下し、2 秒後のスピードは 4m/s となり、3 秒後には玉のスピードは 6m/s となっていることが観察されるはずである。じつは数式(1)がわかっていれば落体のスピードは導き出せるのである。ガリレオはその方法を知らず、24 歳のニュートンにはその方法はずでに自家薬籠中のものになっていたのだ。たしかに、時間 t での“瞬間的な”スピードを算出するとなると、とたんに難しくなる。これからその方法を式(1)を例にとり、ニュートン流に考えてみよう。

時間が t 秒から h 秒進んで $t + h$ 秒後の玉の位置は $(t + h)^2$ と書ける。これから(1)式の右辺を引く：

$$(t + h)^2 - t^2 = 2th + h^2 \quad (3)$$

この結果は、玉が時間 t から $t + h$ まで経過する間にレール上を滑りおちた距離である（すこし複雑に見えるが、やっていることは中学校の代数演算である）。これを h で割れば、玉が時間 t から $t + h$ まで経過する間にすべりおちる平均スピードが計算されたと見てよいであろう：

$$\text{玉の平均スピード} = 2t + h \quad (4)$$

ここで h を限りなくゼロに近づけるのだ。すると、得られた結果はまさに時間 t という瞬間における落体のスピードと考えてよいであろう。時間 t でのスピードを v と書けば（式（4）の右辺の h をゼロとして）

$$v = 2t \quad (5)$$

となつて、玉の時間 t でのスピードは t に比例することがわかった。この例では比例定数は 2 である。この結果はガリレオが実験によって見出したことであつたが、時間と距離の関係が式（1）のようにわかっていれば以上のような計算によって玉のスピードを（5）のように導きだせるのである。

以上の計算をすこし抽象化しながら整理してみよう。距離 y は時間 t が決まればその値を計算することができるので距離を $y(t)$ と書こう（ y は t の関数であるという）。すると（3）の左辺は $y(t+h) - y(t)$ と書け、これを Δy と書こう：

$$\Delta y = y(t+h) - y(t) \quad (6)$$

Δy はつまり玉がすべり落ちる距離の増加分である。これを t の増(加)分 h で割るのである。 t の増分を $\Delta t (= h)$ と書けば、（4）は

$$\frac{\Delta y}{\Delta t} = \frac{y(t+\Delta t) - y(t)}{\Delta t} \quad (7)$$

ここで最後に $\Delta t = h$ を限りなくゼロに持っていく。ゼロとした極限が式（5）である。それを次のように書く：

$$\frac{dy}{dt} = v = 2t \quad (8)$$

右辺の $2t$ は y が（1）によってあたえられる場合のひとつの例であつてかならず $2t$ になるのではない。自由落下の場合は $9.8t$ になる。

以上の一連の計算の前半（5）まではニュートンの計算である。かれは、いつも行っている代数計算に、無限小という概念（ h をゼロにもっていくこと）を若干持ち込んだに過ぎない、特別に強調するほどの新しさはないと認識していたのではなかろうか。じつは、ニュートンの計算法は、現代数学で「微分法」と呼ばれる便利な演算なのである。これを新しい演算としてその重要性に気がついたのは、ドイツの数学者、哲学者ゴットフリート・ライプニッツ（1646-1716）であつた。 dy/dt という（美しい）表記法を考案したのもライプニッツであつた。なお、積分とは微分の逆演算（掛け算には割り算があるように）であつて以上の例では（5）式が与えられて（1）式を導く演算を積分という。距離を時間で微分すれば、速度がえられる。逆に速度を時間で積分すれば距離が得られる。

ニュートンはガリレオの発見した落体の法則を天体の運動を論ずる際に利用した。惑星は太陽のまわりを楕円軌道に乗って運行しているが、もし、太陽がなくなれば惑星はそのまま楕円軌道の接線方向に飛び去ってしまうであろう。実際には惑星は太陽に引っ張られているのであるが、ニュートンは、惑星は遠心力によって楕円の接線方向に飛び去りたいのだが、つねに太陽に向かって落下しつづけていると考えたのだ。そこにガリレイが発見した落体の運動法則が一役買って出て来るのだ。それについては次回に論ずるこ

としたい。

<そうだ京へ行こう・古刹の花物語> (10)

大竹 漢州

東山山麓 2, 隋心院 門跡

「隋心院」のある山城の国は、京都よりも歴史が古い土地です。天智天皇陵が造られたことでも理解できます。昨今は山科も地下鉄外郭線の開通で便利になり、同じ山科に位置する「毘沙門堂」も比較的容易に行けるようになりました。しかし旅の楽しみは、バスやタクシーの車窓から眺めることに限ります。景色の移り変わりや人々の生活を垣間見ることもできます。思い掛け無い光景にも出会い、旅の印象が強く残ることもあります。旅人はバスの旅が好きです。

車は五条坂を上って、川田から清水焼団地抜けて南に走っています。緑の濃い花山稲荷大社の小高い丘を過ぎました。緑の溢れる市街地を目にすると、何故か心が和みます。山科は西に東山を背景にして緑の多い地域です。古代から中世、近世の史跡が数多く残っているのも山科です。山科は浅野内匠頭が松の廊下で刃傷して切腹、赤穂家が断絶して家禄を整理した後に、家族と離別した大石内蔵助が隠棲した地でした。大石良雄に所縁の深い大石神社と岩屋社の横を通り過ぎていきます。一時居を構えた内蔵助を偲んで、大切に守り続けてきた山科の人々の情の深さを感じます。今の世の中で失われたてしまったのが人情です。

更に車が東に進むと、折上稲荷神社と坂上田村麻呂陵の近くを通り過ぎていきました。折上稲荷神社の稲荷塚は、1500年前のもので、稲荷社の前身です。しかも伏見稲荷神社と同じ長い歴史のある神社です。しかも両神社は、レイライン（神社と神社が一直線上にあること）で結ばれて、伏見稲荷社の奥社よりも、ご利益があるとも言われています。平安京の造営に多大の貢献をした坂上田村麻呂が、山科の地に葬られていることも知りませんでした。通り過ぎる地名を追っても、山科の歴史の重みを感じました。一度山科の歴史探訪をしたいものです。

「隋心院」は門跡寺院です。かつては東山連峰の静かな麓にひっそり佇んだ草深い古刹でした。門跡寺院とは、皇族、貴族などが、出家し居住した寺院です。格式が高いのが特徴です。京都の寺院は、仏道の実践信者の参拝、信仰以外にも観光や写経等の様々な役割を果たしています。

禅寺の質素な造りとは対照的に、門跡寺院は華麗です。門跡寺院は襖絵も禅寺と異にしています。各部屋に飾られている襖絵に艶があります。隋心院には、狩野派の絵師による「花鳥山水の画」「四愛の図」「舞楽の図」「虎の図」、そして「賢聖の障子」の華麗な襖絵が、惜しげもなく並びたてられています。隋心院門跡は、小野小町所縁の寺院らしく、玄関には大きな小野小町の百人一首で馴染み深い姿身が描かれた屏風絵が飾られています。屏風絵の上部の壁面には達筆な文字で「隋心院」の額が掛けられています。

余談です。随心の随とは思ひどおりになること。心を思ひどおりにする
ことの意です。随心院門跡の創建は、開祖の夢物語から始まります。開祖仁海
僧正の夢枕に、母親が生まれ変わった牛が現れます。僧正は夢の牛を探し求
めて彷徨した末、鳥羽の辺で夢枕の牛に出会うことができました。捜し求め
た理由を話して引き取り優しく飼育しましたが、牛は程なくして死んでしま
います。今日、随心院門跡で祀られているご本尊は、仏像ではありません。

牛皮紙の金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅に描かれた仏の「大日如来」です。
仁海僧正は件の牛の尾を母の亡骸として山上に丁重に吊って埋葬しました。

山名を「牛尾山」と称し、以前の随心院門跡の寺名は、「牛皮山曼荼羅寺」
と呼ばれていました。

仁海僧正は仁徳と靈感を備えた人物でした。宮中から深い帰依を受けてい
ました。度々勅命を受けて、請雨の法を神泉苑で催しています。今日では神
泉苑は京都市中央区の市街地にあるなんの変哲もない小苑ですが、かつて平
安京の大内裏が造営された際に、創設された禁苑です。御所内に人工的に造
られた大池です。天皇の舟遊びの遊覧池でもありました。

空海が神泉苑に龍女龍王を勧請して雨乞いの修法をした故事が伝えられ
ています。仁海僧正も真言宗派の僧侶でした。空海が師・恵果から直伝され、
仁海僧正にも伝えられた真言密教の秘儀を施したに相違ありません。

後に後堀川天皇から門跡の宣旨を受けて以降、寺名は今日の「随心院門跡」
に変えられています。1229年の事です。当時は、この地山科を始め、播磨、
紀伊の各地に寺領を所有して、七堂伽藍の壮美を誇っていた随心院門跡も、
応仁の乱で灰塵に帰した後、寺地を九条唐橋から相国寺近辺を転々として、
ここ故地に「牛皮曼荼羅寺」が戻ったのは1599年です。関ヶ原の合戦の前夜
でした。

「小町寺」 氷上 勉著 画文集

『京の思い出図絵団より』

静原にゆくたびに、ここに立寄る。
立寄るといえば、深草少将みたいだが。
寺のうらに戸数の少ない村が
かくきれている。
その寺の墓地だろう力*。
無数の石塔のなかに急な石段があった
ここは寺のうらに当たる
ぼくの訪ねた日、雪がしきりに
降っていた

この門跡寺院が後世に名を残したのは、小野小町の存在を無くして語れ
ません。古来、この地は、小野と呼ばれ小野氏の栄えた土地でした。主人公
小野小町は書道家小野道風の従姉妹で実在した人物です。平安朝初期、仁明
天皇の東宮時代から即位して更衣に上がり、崩御まで仕えていた女性でした。
一節によれば和歌を巧みに詠み、しかも絶世の美女であったと伝えられてい
ます。三十歳を過ぎた頃、宮仕えを辞めて、小野の郷に引き籠もり余生を送
りましたが、世の中の男たちが放って置く訳がありません。

この地で語り伝えられている最も有名な逸話が「深草少将の百夜通」です。語り継がれて今日に至っています。山科は歴史の人物が今も生きている世界です。後世に歌人として、六歌仙の第一人者と賞された小野小町は、夢でしか会えない深草少将を偲んで詠んだ歌があります。

花の色はうつりにけりないたずらに
わが身世にふるながめせしまに

旅人が隋心院門跡を訪れた秋の盛りに、医王門から大玄関に続く表書院では、大勢の観光客に囲まれて、着物姿の美女たちが、床の間を背にして緊張した面持ちで並んでいました。審査中の様子です。係員に聞いてみると「小町祭」に因んで、ミス小町のコンテスト最中でした、2006年から開催されている年中行事です。残念ですが、女性たちは大柄で健康的な女性ばかりで、小野小町の様な嬌やかな女性はいませんでした。コンテストのお陰で隋心院門跡の印象は希薄になってしまいました。

隋心院門跡は花の寺です。大玄関から表書院、能の間、奥書院、そして本堂、庫裏などは、回廊で結ばれる構造で、建物の間には大小の壺庭が配置されています。一面を緑で覆う杉苔で冬が始まり、梅樹、皐月、石楠花が季節毎に花を咲かせ、秋の楓まで楽しませてくれます。隋心院門跡は一名を“山科の苔寺”とか“小野の梅林”とかで紹介されています。

本堂は故地に移った桃山時代の様式が残る寝殿造です。平安期を忍ばす半部が造られています。ご本尊は如意輪観音菩薩座像です。ご本尊と横一列に並んで諸仏が安置されています。定朝様式の阿弥陀如来坐像、運慶作と伝えられている金剛薩埵座像、及び薬師如来座像が、本堂前の庭園から乱反射した光の中に座っておられました。

本堂と能の間、そしてL形の奥書院に面して、心宇池と大杉苔を配置して大規模な作庭された庭園が広がっています。秋には楓が真赤に染まり庭全体を燃え上がった様な色彩で染め、茶色に変わる頃には、雪で無彩色の冬を迎えます。緑の常緑樹と対照的な色彩の世界を創り出します。花の古刹は、色の魔法使いです。

天地アーカイブ

（魚山さんは、天地に多稿してくれました。天地事務所の資料を整理していただきましたら、短編集がありました。未紹介と思われましたので、その中の1編を、アーカイブとして載せてみました。2004年の作品です。）

アメリカの日本人 魚山 釣太

正月の10日に、アメリカの日本人から年始のメールが届いた。70才を過ぎた彼は、既に人生の半分以上をアメリカで暮らしている。京都大学の法学

部卒業、しばらくは京都交響楽団に所属し、首席チェロを勤めたりしていたが、1968年の夏ニューヨークのジュリアード音楽院主催の夏季セミナーに1ヶ月の予定と称して遊学したままアメリカに住み着いてしまった。カーネギー・ホール所属のシンフォニー・オブ・アメリカのオーディションに合格して、そのチェロ奏者として演奏活動が続けるうちに、個人リサイタルの伴奏者だったピアニストでニューヨーカーの女性と結婚して、マンハッタンの43番街ウエストの高層アパートメントで長年暮らしている。婦人との間のハーブの娘二人も成人し、ジュリアード音楽院を卒業した長女はバイオリニストとして、テキサス州ダラスの交響楽団、ペンシルバニアのピッツバーグ交響楽団、最近ではフィラデルフィア交響楽団などで活躍するようになった。

シンフォニー・オブ・アメリカを定年で退職（同交響楽団はニューヨーク市営であり、団員は全て市の嘱宅である）した後は、フリーの演奏家として、ニューヨーク市内はじめ各地の音楽会や、別荘のログ・ハウスがあるメイン州サリーのサマー・フェスティバル、その他個人リサイタルなどに出演して、かなり多忙で充実した毎日を送っているようである。7～8年に1度、短期の滞在で帰国しているが、永住帰国するつもりは無く、生涯をアメリカで過ごす考えのようである。

彼からの手紙を読むと、30数年のアメリカ生活で、日本人としての感覚からも既にずれており、さりとして生粋のアメリカ人にもなりきっていない、どこか奇妙なセンスが感じられる。移民の国アメリカは、かつては移民が出身国の文化を捨ててアメリカ文化に acculturation(文化適応)するのが理想的であるという考え方から「Melting pot (坩堝)」ということが言われていたが、最近では、移民達がそれぞれの cultural identity (文化的独自性)をそのまま維持しながら一つの社会を作り上げ、国全体として様々な文化背景を持った人達の集まりと考えるべきだということから、アメリカ社会を「Salada bowl (サラダ・ボウル)」と表現する発想が出てきている。

彼も、レタスかキュウリか分からないが、サラダ・ボウルのアメリカ社会の新移民と言って良い。その新移民がどのような感覚で日本人や日本の社会を見ているのかの一つのサンプルとして興味深いので、以下に彼からの手紙をほぼ原文のまま掲載した。但し、() 内は筆者の注である。

『A Happy New Year!』

「千代に八千代に」、「さざれ石」の・・・・民主主義下の日本では、新年早々、君主主義の「君が代」を歌うわけにいかないでしょうね。日本の国歌はどうなっているのでしょうか。オリンピックの際には、ブラスバンドだから、差し支えないわけですか。宮内庁の林広守が古今和歌集の歌に作曲した唱歌で、法的には国歌ではないそうですが、(法律の制定を知らない) なかなかいい曲で世界的に知られているので、大事にした方がいいです。

「君が代」ではちょっとおかしいですから、歌詞を募集して変えては如何ですか。

アメリカ人は幼稚園から毎朝国歌を歌わせられて、国旗に忠誠を誓います。野球の試合の開始前にも観客全員起立して、国歌を歌います。学校、郵便局

公的な建物には必ず国旗が立っているばかりか、祝祭日には、個人の家に国旗が出され、アメリカ中星条旗に埋まります。(敗戦前の日本と同じである)

自分の国を愛するのは、どこの国でも当たり前のことで、軍国主義とは関係ないです。(軍国主義とは関係ないにしてもアメリカの強烈な国家至上主義あるいは全体主義的思考方式との関係はどのように解釈するのか)

日本人は自分の国の国歌が世界のどこかで、ほとんど毎晩のように演奏されているのを知らない。まあ世界の人達も、演奏している本人でさえ知らないでしょう。最初に揚げた二節ですが、このメロディーがプッチーニのオペラ「マダム・バタフライ」に出てくるのです。第一幕の結婚式の場面で、代官が出場するところです。プッチーニは日本を訪れたことが有りませんが、ローマの日本大使館へ相談しに行ったのです。時の大田大使の夫人が芸者上りで、日本の民謡を数多く紹介しました。結果的には、プッチーニの偉大な天才のお陰で、遠くなった明治の懐かしい歌が沢山、永遠に保存されました。国歌を含めて八つほどです。だから「マダム・バタフライ」は小生の最愛のオペラで、何度演奏しても感動します。真夜中に港町から聞こえてくるラーメン売りのチャルメラの節も出ているのですが、世界中誰も知らないです。(このあたりは彼の独断に過ぎない、知る人は知っている)

タイムズ・スクエアやメイシーズの喧騒を除いて、クリスマスのニューヨークは神聖そのもの、まるで 17、8 世紀に戻ったようです。アメリカ人の 90% は神を信じていて、クリスマスが近づくと、殆ど数ブロック毎に立ち並ぶ教会やシナゴク、寺院に通います。神を畏れ、人間の罪を謝って、少しでも良い行いをしようと努力し、自分より恵まれない人達を助けようとするのです。(反面、原爆で民間人を大量殺戮しても戦争を早く終わらせたいと正当化したり、自国の利益に反する多民族を圧殺するという二面性をどう説明するのか)

殆どすべての教会で、毎晩のようにコンサートがありますが、人間臭いベートーベンなどのロマン派音楽は全く演奏されず、教会や宮廷中心だった古典派ばかりで、バッハの「マグニフィカート」や「カンタータ」、ヘンデルの「メサイア」が鳴り響きます。その他ヘンデルの「ジュダス・マッカベウス」、「ソロモン」、ビバルディの「グローリア」、「四季」や、プーランク、メンデルスゾーン、ブルックナーなどの教会のオルガニストだった、作曲家のものばかり。そして子供達のためにはフンパーディングの「ヘンデルとグレーテル」、チャイコフスキーの「くるみ割り人形」など。

ナチスのアーリア人種至上主義の匂いのただよう、ベートーベンの「第九」に狂っている日本人にはどう見ても異常です。(この点は全く同感) フルトベングラーは、ヒットラーの誕生日にナチスの為にベルリン・フィルハーモニーの「第九」を指揮して大成功をおさめました。敗戦後の日本人の心の底に、未だ全体主義に対する懐旧心が沈んでいるのでなければ幸いです。(このあたりにも浦島太郎的な感覚のずれがある)

確かめてはいませんがベートーベンの「第五(運命)」のタタタターはモース信号の「V」に当たるそうで Victory を象徴するので、戦時中、米軍がよく使ったとか聞きました。

アメリカ第三代大統領トマス・ジェファースンの命を受けた、ルイス・アンド・クラーク探検隊が、ミズーリー川を遡行し、コンチネンタル・ディバ

イド（大陸分水嶺）を超え、北米大陸を横断して太平洋岸に達する夢の航路の開拓と調査のために、イリノイ準州（当時）ウッド・リバーのキャンプ地を出発したのは、1804年5月14日のことだった。今年は、それから丁度200年になる。

当時のアメリカ領は、既に、東部アパラチア山脈を越えて、ミシシッピー川東岸にまで拡大していた。それが、ルイス・アンド・クラーク探検隊の出発の前年、1803年に、フランス領であった、ミシシッピー川西岸からほぼロッキー山脈の大陸分水嶺に至るルイジアナと呼ばれていた広大な地域（現在のルイジアナ州ではない）を購入（所謂ルイジアナ・パーチェイズ）したので、アメリカ領は、太平洋岸までのほぼ3分の2を占めるに至っていた。ルイス・アンド・クラーク探検隊の成功は、アメリカ連邦を太平洋岸まで拡大するというジェファソン大統領が描いた夢の実現に、大きな一歩を踏み出したことになった。

今年はこの建国期の壮挙から200年目にあたり、バイ・センテナリアルとしてアメリカ全体で、また各地の探検隊のヒストリック・サイトやメモリアル・ミュージアムなどで、一斉に記念行事が盛大に行われることだろう。

米国内では「アメリカン・ドリーム」などと言って、公平・平等な自由競争の社会で、誰にでも成功のチャンスがあると、米国人であることの素晴らしさを徹底的に教育しているが果たしてそうであろうか。オカルト的な新興宗教以上のマインドコントロールで空疎な夢を見させ続けられているに過ぎないのではないか。しかも国際的には世界最強の国にのし上がった覇権国の地位を利用して、自国の利益の擁護と拡張のために、やりたい放題である。17世紀から18世紀にかけて植民地時代にヨーロッパから移住した移民を先祖にもつマジョリティのアメリカ人にとっては、ルイス・アンド・クラーク探検隊はアメリカ建国期の一大壮挙として誇らしい史実であろうが、ヒスパニックやエイジアンの20世紀後半以降の新移民達にとっては、どのようなものであろうか、機会有れば一度聞いてみたいものである。（2004年・1月）

文化講座・講演会・美術展

奈良興福寺文化講座 28年11月17日（木曜日）

午後5時半～6時半：第一講

講演：「興福寺を掘る―近年の発掘調査成果」

講師：国学院大学 准教授

青木 敬

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」

興福寺

貫首

多川俊映

会場：（学）文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

（JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線

新宿駅 3 分)

第 7 6 回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 11 月 17 日(木)13:00-15:00 如水会館スターホール
2. 演題・講師 『英国の EU 離脱をめぐる諸問題について』
小平龍四郎氏 日本経済新聞社 論説委員
3. 申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com
Tel: 047-464-4063 (留守録有)
フルネーム・卒年・所属 (例:一般・紹介者名)
会費:2000 円 婦人 1000 円 学生無料
茶話会:15:15-14:20 千円 (自由参加)
4. ホーム <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>
ページ (「新三木会」で検索可)
6. 予告
 - 12/15, 第 77 回
ケント・ギルバート氏 米国加州弁護士 著述家
『日本の戦後を反省する』
 - 1/19, 第 78 回 佐藤勝彦氏 宇宙物理学者
東京大学名誉教授 日本学士院会員
『宇宙は無から生じた』
 - 2/16, 第 79 回 古森義久氏 国際問題評論家
産経新聞ワシントン駐在編集特別委員
『新大統領下、米国の今後の方向』

すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内 110-2 ベルデュール 103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール info@sudoh-art.com

ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

すどう美術館 コレクション パート 2

会期 10 月 7 日(金)～12 月 26 日(月)
開館時間 10:00～17:00 火曜定休
入館料 500 円(小学生以下無料:保護者同伴)
会場 箱根芸術空間 風伯
〒250-0311
足柄下郡箱根町湯本 540-4
Tel 0460-85-7440

＊講演会 10月22日（土）午後2時 「豊かに生きる－美術との出会い－」
すどう美術館 館長 須藤一郎

事務局

<事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
（電話・FAX 番号：03-3837-0290）

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書の推薦依頼>

<プリント版・郵送>

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」（普通）7871532
（口座名）テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・435号

発行：2016年10月31日

: 天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp

URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>